

2 - 10 十勝沖の海底地形

Submarine Topography off Tokachi

海上保安庁海洋情報部

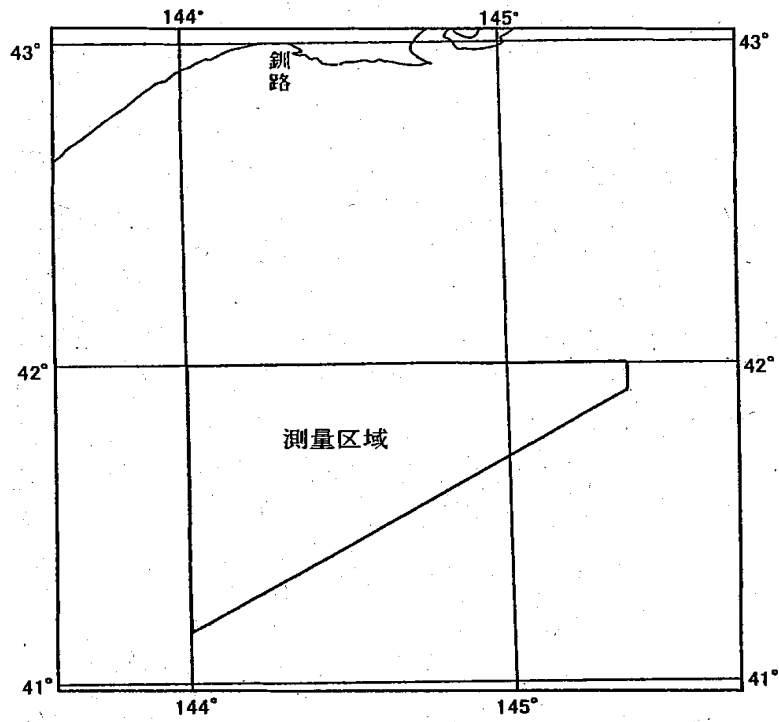
Hydrographic and Oceanographic Department, Japan Coast Guard

海上保安庁海洋情報部では「平成 15 年十勝沖地震」発生後、震源域のなかで精密な海底地形データが十分に得られていない区域において海底地形測量を実施した。測量区域は釧路南方で、測量は平成 15 年 11 月マルチビーム音響測深機（シービーム 2000）を使用し、測線方向は東西、測線間隔は 1.5 海里から 6 海里である。

測量区域は千島・カムチャツカ海溝へ下る斜面であり、深海平坦面、海底谷、海脚及び海丘が見られる。また、多数のリニアメントが認められる。

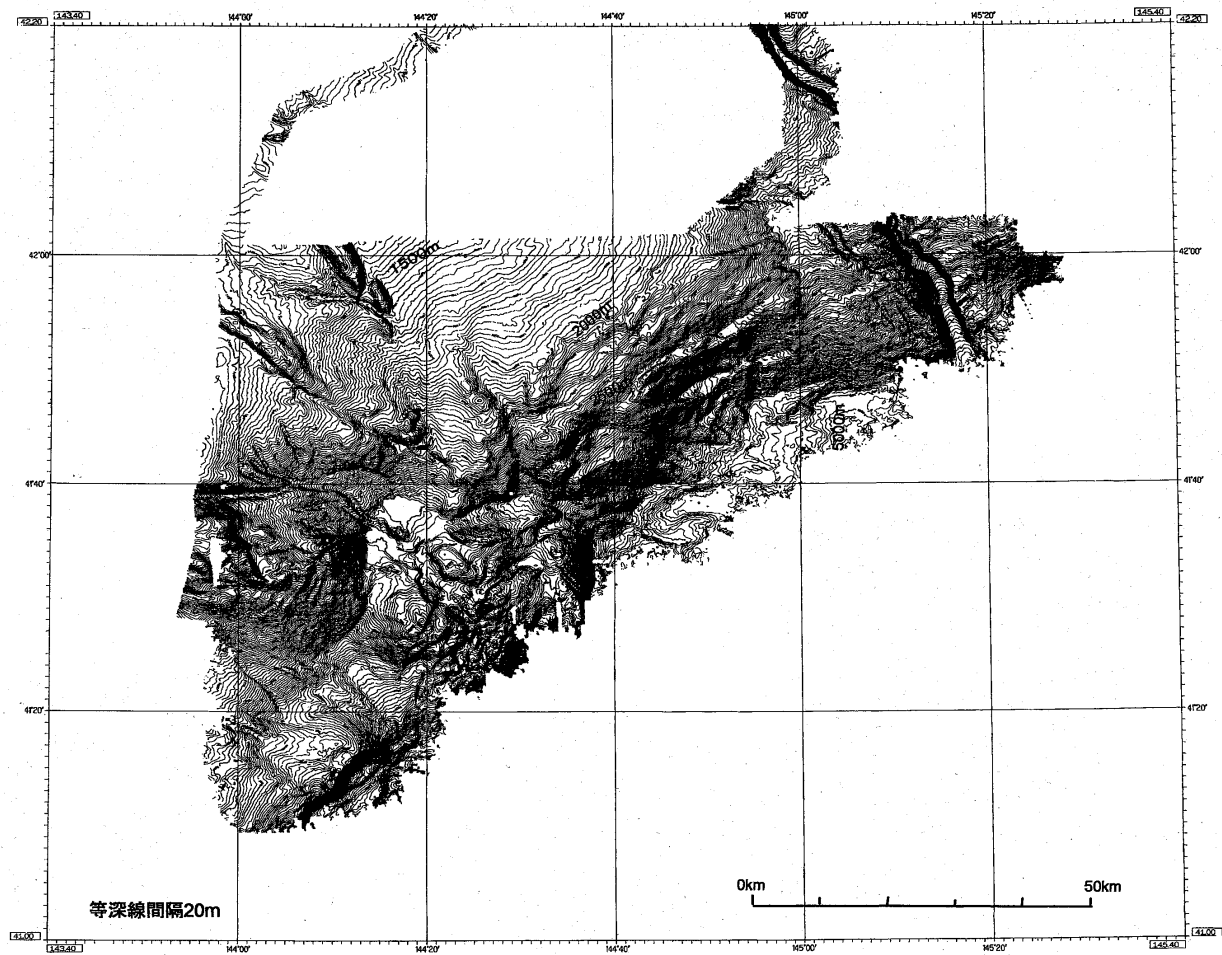
等深線の一般的走向は東北東 - 西南西方向で、千島・カムチャツカ海溝軸と同方向である。深海平坦面は水深 2800m ~ 2900m, 4800m, 4800m ~ 5000m に位置している。海底谷は西部には襟裳海底谷が、北東部には急峻な谷壁をもつ釧路海底谷とこれに合流する広尾海底谷が見られる。襟裳海底谷は 2800m ~ 2900m の深海平坦面で谷地形はやや不明瞭になるが、平坦面を通過後明瞭となり蛇行しながら南東方に流下する。襟裳、釧路、広尾の各海底谷の他にも小規模な海底谷が多数見られる。

海脚は北西部に広尾海脚、南広尾海脚が位置し南東にのびている。広尾海脚の南東端には比高約 300m の高まりが隣接している。また、南東方には北西 - 南東方向に軸をもつ尾根状の高まりが見られる。調査海域南西部には海丘群が存在し、長軸方向の長さが 4km ~ 10km、比高は 200m ~ 300m である。リニアメントは東経 144° 20' 以東で水深 2600m 以深に多数認められ、その方向は等深線の一般的走向と同様の方向を示すものが卓越している。北西部では広尾海脚、南広尾海脚の基部に沿ったリニアメントが認められ方向は北西 - 南東である。



第1図 測量区域

Fig.1 Surveyed area.



第2図 十勝沖海底地形図

Fig.2 Bathymetric chart off Tokachi.